

強み発掘診断 会社全体の結果レポート

株式会社山田製作所 様

集計日：2026年9月22日

回答人数：4名（経営層1名・管理職1名・社員2名） / 従業員数：45名

※この結果は、貴社の複数の方にご回答いただいた内容をまとめたものです。個人の回答は表示せず、全体の平均と、立場ごとの平均で示しています。

総合評点 ★★☆☆☆ 45 / 100点

タイプB | 隠れた宝が見え隠れしている

会社の強みや大事にしてきたことが、ところどころでは見えているのに、まだ隠れたままの部分もあるようです。たとえば、社長や後継者の頭の中にはちゃんとあるのに、社員のみなさんにはまだ十分伝わっていない、ということもよくあります。見えているところを手がかりに、隠れている部分をみんなで一緒にたどってみませんか。



立場による見え方の違い

立場による見え方の差が最も大きく出ているのは「継承軸」です（経営層 21点／社員 6点）。同じ会社でも、立場によってこれだけ見え方が違います。この差こそが、社内で話し合う価値のあるテーマです。年表と一緒に描きながら、それぞれに見えている景色を持ち寄ってみませんか。

会社全体として

4つの軸の中では、「接続軸」がこれからの伸びしろとして見えています。社員のみなさんが、自分の仕事と会社の歩み・これからのつながりを実感できる場を増やすことが、次の一歩になりそうです。

おすすめの次のステップ

ミニ年表トライアル（半日）

立場によって見えている景色を持ち寄り、半日で会社の歩みを一緒にたどってみませんか。見えている宝と隠れている宝が、みんなの前で確かめられます。

ご相談は、メールへのご返信、または info@enesphere.co.jp までお気軽にどうぞ。

4つの診断軸について

この診断は、次の4つの視点から、会社に眠る「見えない強み」がどれだけ言葉になり、社内で共有されているかを見ています。各軸は2つの質問（4段階）の回答を25点満点に換算し、4軸の合計で100点満点としています。診断結果のレーダーチャートは、この4つの軸のスコアを表しています。100年タイムライン・ワークショップでは、過去から未来までの年表を社員みなさんと一緒に描くことで、この4つの軸を一度に深めていきます。

1

言語化軸 強みを言葉にする力

技術力や取引先からの信用、長年の関係性など、数字には表れない自社の強みが、社内では言葉として説明できる状態になっているかを見ています。「なんとなくすごい」で終わらず、誰かに説明できる言葉になっているかがポイントです。

2

共有軸 世代を超えて伝え合う風通し

ベテラン社員の経験や勘どころが、日々の対話を通じて次の世代に伝わっているか。そして、若手や新人の新しい意見も臆せず言い合えるか。世代や立場を超えて、双方向に風通しよく意見が行き交っているかを見ています。

3

継承軸 次の世代に残す物差しと仕組み

「何を守り、何を変えるか」という判断基準や行動の物差しが、社長おひとりの頭の中だけで終わらず、次の世代にもきちんと残っていく状態にあるかを見ています。誰が、どうやって決めていくのかという意味決定の仕組みや、親族で経営している場合は経営と家族の関係を整理しておくことも、この軸に含まれます。

4

接続軸 自分の仕事と会社のつながり

社員みなさん一人ひとりが、自分の日々の仕事を会社の理念や歩みとつなげて、自分の言葉で語れているかを見ています。「言われたことをやる」から「自分も会社の歴史をつくっている」への実感の変化がポイントです。

※本診断の4つの軸は、以下の研究・調査等の考え方を参考に、合同会社エネスフィアが独自に設計したものです。
経済産業省「知的資産経営の開示ガイドライン」／中小企業基盤整備機構「中小企業のための知的資産経営マニュアル」／一橋大学名誉教授・野中郁次郎氏が提唱した「SECIモデル」（知識創造理論）／帝国データバンク「長寿企業の実態調査」／立命館大学・寶少杰氏による家族経営の存続に関する研究／経済産業省「ファミリーガバナンス・ガイダンス」／電通PRコンサルティング「インターナルブランディング®調査」